

平成 22 年 5 月 17 日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19320107
 研究課題名（和文） 占領期の諸言説分析による「戦後日本社会」形成に関する学際的枠組みによる共同研究
 研究課題名（英文） Co-research Project with Interdisciplinary Approach on Formation and Transformation of Post-War Japanese Society by analyzing various discourses in Occupied Japan
 研究代表者
 谷川 建司（TANIKAWA TAKESHI）
 早稲田大学・政治経済学術院・教授
 研究者番号：10361289

研究成果の概要（和文）：

本研究は、敗戦とそれに伴う占領という価値観の大変革期という背景の下で、新しい価値観を示す新語、アメリカから輸入された外来語、考案された和製英語、混乱期特有の通俗語・略語・隠語などが様々な分野で数多くの言葉が出現した占領期に焦点を当て、それらの言葉とその背景にある文脈を検証することによって「戦後日本社会」の形成を担った日本人の根底にある意識を再確認することを目的とした。その成果として占領期用語約 100 語を解説した最終報告書を作成し、同報告書は 2010 年度中には『占領期用語集』として商業出版される。

研究成果の概要（英文）：

This research project aimed to reconfirm unconscious intension of the Japanese people who achieved construction of post-war Japanese society, by verifying on foreign words imported from the U.S., newly invented Japanese coinage from English, vulgarized, abbreviated words or jargon which were peculiar during confused era, from the occupation period of Japan after being defeated and under the background of one's sense of values were revolutionized. The fruits of this project were edited as the final report which include about 100 words in occupation era, and will be published on commercial base during year 2010.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|------------|-----------|------------|
| 2007年度 | 7,100,000 | 2,130,000 | 9,230,000 |
| 2008年度 | 5,700,000 | 1,710,000 | 7,410,000 |
| 2009年度 | 1,500,000 | 450,000 | 1,950,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 14,300,000 | 4,290,000 | 18,590,000 |

研究分野：

メディア史、映画史、大衆文化研究

科研費の分科・細目：

社会学・社会学(3801)

キーワード：

占領期、新語、雑誌、シソーラス、戦後日本社会

1. 研究開始当初の背景

本研究課題の研究計画の根幹として、キーワードの体系化を行うことにより、日本の占領期における諸言説を最もまとまった形で保持している「プランゲ文庫」の「雑誌」コレクションを元に平成12年度から16年度にかけて科学研究費補助金（研究成果公開促進費）を受けて作成した「占領期雑誌記事情報データベース」の利用価値を高めるための「シソーラス」と位置づけられる情報を整理し、占領期に関心を持つ研究者にとっての研究環境を整備することが背景にあった。

2. 研究の目的

本研究によって学問横断的に蓄積されていくことを期待している様々な分野における占領期特有の用語などのデータは、最終的に「占領期新語集」としてまとめるのみならず、そのデータ自体をシソーラスと位置づけ、完成済みの雑誌データベース、進行中の新聞データベースに注入していくことを想定している。結果として、データベースのコンテンツは順次更新され、そのヒット率は飛躍的に上がり、データベース自体がより利用価値の高いものに生まれ変わることに大きく寄与する作業でもあると位置づけている。

3. 研究の方法

本研究におけるアプローチ方法の学術的な特色・独創的な点を挙げるならば、その第一は政治・経済・社会・文化・芸術など様々な学問領域の研究者が学際的・学問横断的に共同作業として行なう研究である、という点が挙げられる。

第二点目は、共同研究の成果を「シソーラス」という形態に収斂させていくそのアプローチ法である。日本の雑誌・新聞のシソーラス構築は遅れている。特に欠号の多かった占領期雑誌のシソーラスは、どのジャンルにおいてもその学問的蓄積は皆無に近いとさえ言える。ごく一部の有力市販雑誌、有名研究誌などしか目次一覧をもっていなかったこともあり、シソーラスの基礎的情報は欠如していた。ところがプランゲ文庫は日本国内の欠号雑誌を大幅に補充してくれ、またほとんど保存されていない民衆レベルの雑誌が豊富に含まれている。このプランゲ文庫は占領期雑誌記事情報データベースの開発で飛躍的に活用しやすくなったが、さらにそれを改善する必要に迫られている。研究成果のデータベースへの「シソーラス」として投入は、言わば眼に見えないところでデータベースの使い勝手を改善していくということであ

る。またそうすることによって初めて当該データベースは雑誌・新聞研究のみならず多方面の研究を一層活性化させる道具になる。

第三点目は、逆に研究成果を眼に見える形で国内外の研究者に還元していくアウトプットとしての「占領期新語集」を完成させることを最終目標としている点であった。

このアプローチ方法を確実に実行していくために、本研究においては研究代表者・研究分担者としてそれぞれに占領期に着目した研究の蓄積を持ちつつ、分野の異なる研究者が結集しているのに加え、研究機関での専任のポジションをまだ得ていないために分担者としての応募資格を有しない比較的若手の研究者、および客員研究員として日本に滞在予定の米国在住の研究者の中からも参加者を選び、合計で13名の共同研究者（研究代表者、連携研究者を含む）によって構成される共同研究グループを形成し、それぞれの分野で分担し、あるいは部分的には同じ分野に関し協力しながら作業を進めていった。

4. 研究成果

本研究の成果をまとめた報告書は2010年3月に「平成19年度～平成21年度科学研究費補助金（基盤研究(B))研究成果報告書：学際的枠組みでの占領期諸言説分析による『戦後日本社会』形成と変容に関する共同研究（Co-research Project with Interdisciplinary Approach on Formation and Transformation of Post-War Japanese Society by analyzing various discourses in Occupied Japan）」としてまとめられ、3月時点で約80の項目が、またその後の追加分を含めると約100項目の用語解説原稿が蓄積された。それらの占領期用語の数々は、2010年度中にはさらに加筆修正して磨きをかけた上で、青弓社より『占領期用語集』として刊行され、占領期を研究する者にとっての必携書として今後の研究の進展を強力にアシストしていくことになるはずである。

また同時に、本プロジェクトの副産物として、埋もれていた占領期の日本人の言説を分野ごとに精選して編んだ『占領期雑誌資料大系』も生まれることとなり、2010年5月28日時点で「大衆文化編」全五巻および「文学編」第一巻～第四巻まで（2010年7月末までには第五巻まで刊行予定）が岩波書店より刊行されるに至った。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計3件)

- (1) 吉田 則昭、「戦後メディア史研究の同時代史的考察」、同時代史研究、査読有、第2号、2009年11月、55-64
- (2) 土屋 礼子、「松本清張のメディア戦記」、松本清張研究、査読無、第8号、2007、78-91
- (3) 谷川 建司、「プロパガンダの道具としての李香蘭」、中韓人文科学研究、査読無、第22号、2007、343-370

〔学会発表〕(計3件)

- (1) 原田 健一、「占領期における映画の普及過程——動因としてのアメリカ映画」、日本マス・コミュニケーション学会、2008年11月1日、明治大学
- (2) 谷川 建司、「占領期雑誌と大衆文化」、日本出版学会・雑誌研究部会 2008年度第一回研究会、2008年10月28日、日本エディタースクール
- (3) 吉田 則昭、「占領期における出版団体と出版社——資本・経営・編集についての一考察」、日本出版学会、2007年5月19日、大正大学

〔図書〕(計12件)

- (1) 川崎 賢子・十重田裕一・宗像 和重(編)、岩波書店『占領期雑誌資料大系』文学編 第四巻「『戦後』の問題系と文学 1948.8 - 1949.12」、2010年5月、1-350
- (2) 川崎 賢子・十重田裕一・宗像 和重(編)、岩波書店『占領期雑誌資料大系』文学編 第三巻「破壊から再建へ 1947.8 - 1948.7」、2010年3月、1-364
- (3) 江口雄輔・川崎 賢子・沢田安史・浜田雄介(編)、国書刊行会『定本久生十蘭全集』、第六巻、小説6 1946-1948、2010年1月、1-635
- (4) 川崎 賢子・十重田裕一・宗像 和重(編)、岩波書店『占領期雑誌資料大系』文学編 第二巻「表現される戦争と占領 1946.8 - 1947.7」、2010年1月、1-318
- (5) 川崎 賢子・十重田裕一・宗像 和重(編)、岩波書店『占領期雑誌資料大系』文学編 第一巻「戦争と平和の境界 1945.8 - 1946.7」、2009年11月、1-310
- (6) 江口雄輔・川崎 賢子・沢田安史・浜田雄介(編)、国書刊行会『定本久生十蘭全集』、第五巻、小説5 1944-1946、2009年10月、1-633
- (7) 石井 仁志・谷川 建司・原田 健一(編)、岩波書店『占領期雑誌資料大系』大衆文化編 第五巻「占領から戦後へ」、2009年7月、1-310
- (8) 谷川 建司・王向華・呉咏梅(編)、『越境するポピュラーカルチャー——リコウランからタッキーまで』、2009年7月、13-46
- (9) 石井 仁志・谷川 建司・原田 健一

(編)、岩波書店『占領期雑誌資料大系』大衆文化編 第四巻「躍動する肉体」、2009年4月、1-318

(10) 石井 仁志・谷川 建司・原田 健一(編)、岩波書店『占領期雑誌資料大系』大衆文化編 第三巻「アメリカへの憧憬」、2009年2月、1-350

(11) 石井 仁志・谷川 建司・原田 健一(編)、岩波書店『占領期雑誌資料大系』大衆文化編 第二巻「デモクラシー旋風」、2008年11月、1-336

(12) 石井 仁志・谷川 建司・原田 健一(編)、岩波書店『占領期雑誌資料大系』大衆文化編 第一巻「虚脱からの目覚め」、2008年9月、1-332

〔その他〕

学会以外での口頭発表(計3件)

(1) TAKESHI TANIKAWA, Editing the Occupation-Period Periodical Materials Compendium --- Popular Culture Series: The Cross Genre Activities of Occupation Period Culture Creators, International Symposium: Censorship, Media, and Literary Culture in Japan: from Edo to Postwar, March 7, 2009, Columbia University

(2) 川崎賢子, 「昭和モダニズム文学表現と検閲——久生十蘭をめぐって」 International Symposium: Censorship, Media, and Literary Culture in Japan: from Edo to Postwar, March 6, 2009, Columbia University

(3) SAORI MATSUDA, Women's nude dancing and exoticism, Intercultural flow in East Asia (International workshop at The University of Hong Kong), February 9, 2009, University of Hong Kong

6. 研究組織

(1) 研究代表者

谷川 建司 (TAKESHI TANIKAWA)
早稲田大学、政治経済学術院、教授
研究者番号：10361289

(2) 研究分担者

梅森 直之 (NAOYUKI UMEMORI)
早稲田大学、政治経済学術院、教授
研究者番号：80213502

(3) 研究分担者

土屋 礼子 (REIKO TSUCHIYA)
大阪市立大学・文学研究科、教授
研究者番号：00275504
(H22年度より早稲田大学、政治経済学術院、教授)

(4) 研究分担者

松田 さおり (SAORI MATSUDA)
宇都宮共和大学、シティライフ学部、専任講師
研究者番号：40438742

(5) 研究分担者

御代川 貴久夫 (KIKUO MIYOKAWA)
一橋大学・社会学研究科、教授
研究者番号：40078598

(6) 研究分担者

宗像 和重 (KAZUSHIGE MUNAKATA)
早稲田大学、政治経済学術院、教授
研究者番号：90157727

(7) 研究分担者

山本 武利 (TAKETOSHI YAMAMOTO)
早稲田大学、政治経済学術院、教授
研究者番号：30098412
(H21 年度：連携研究者に変更)

(8) 研究分担者

原田 健一 (KENICHI HARADA)
新潟大学、人文社会・教育科学系、教授
研究者番号：70449255
(H19 年度：研究協力者)

(9) 研究分担者

加藤 敬子 (KEIKO KOTO)
お茶の水女子大学、リーダーシップ養成教育
研究センター、専任講師
研究者番号：90368506
(H19 年度：研究協力者)

(10) 連携研究者

川崎 賢子 (KENKO KAWASAKI)
早稲田大学、文学部、非常勤講師
研究者番号：なし

(11) 連携研究者

吉田 則昭 (NORIAKI YOSHIDA)
立教大学、社会学部、非常勤講師
研究者番号：なし

(12) 研究協力者

石井 仁志 (KAZUSHIGE MUNAKATA)
フリーランス研究者
研究者番号：なし

(13) 研究協力者

大森 恭子 (KYOKO OOMORI)
米・ハミルトン大学、准教授
研究者番号：なし